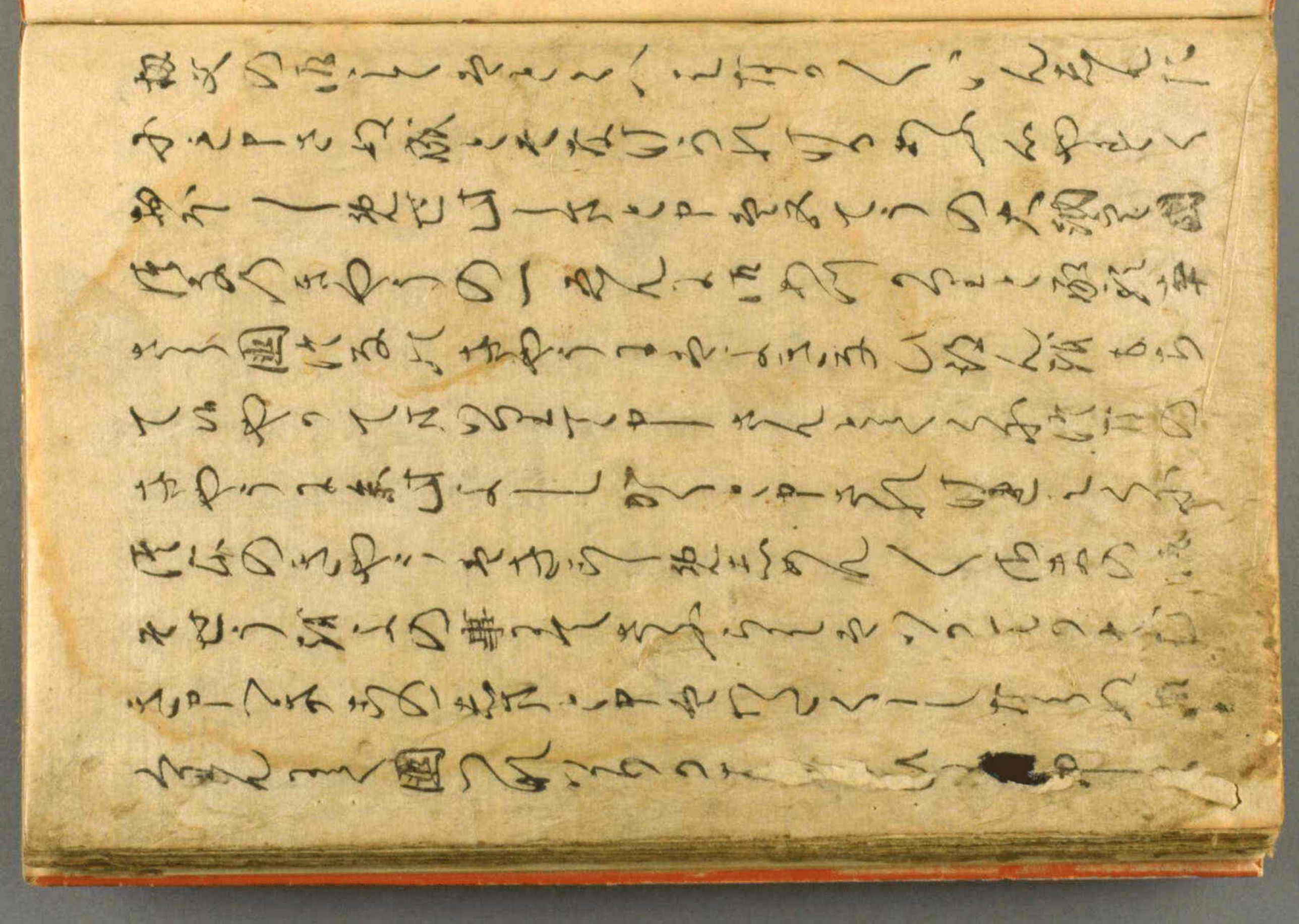
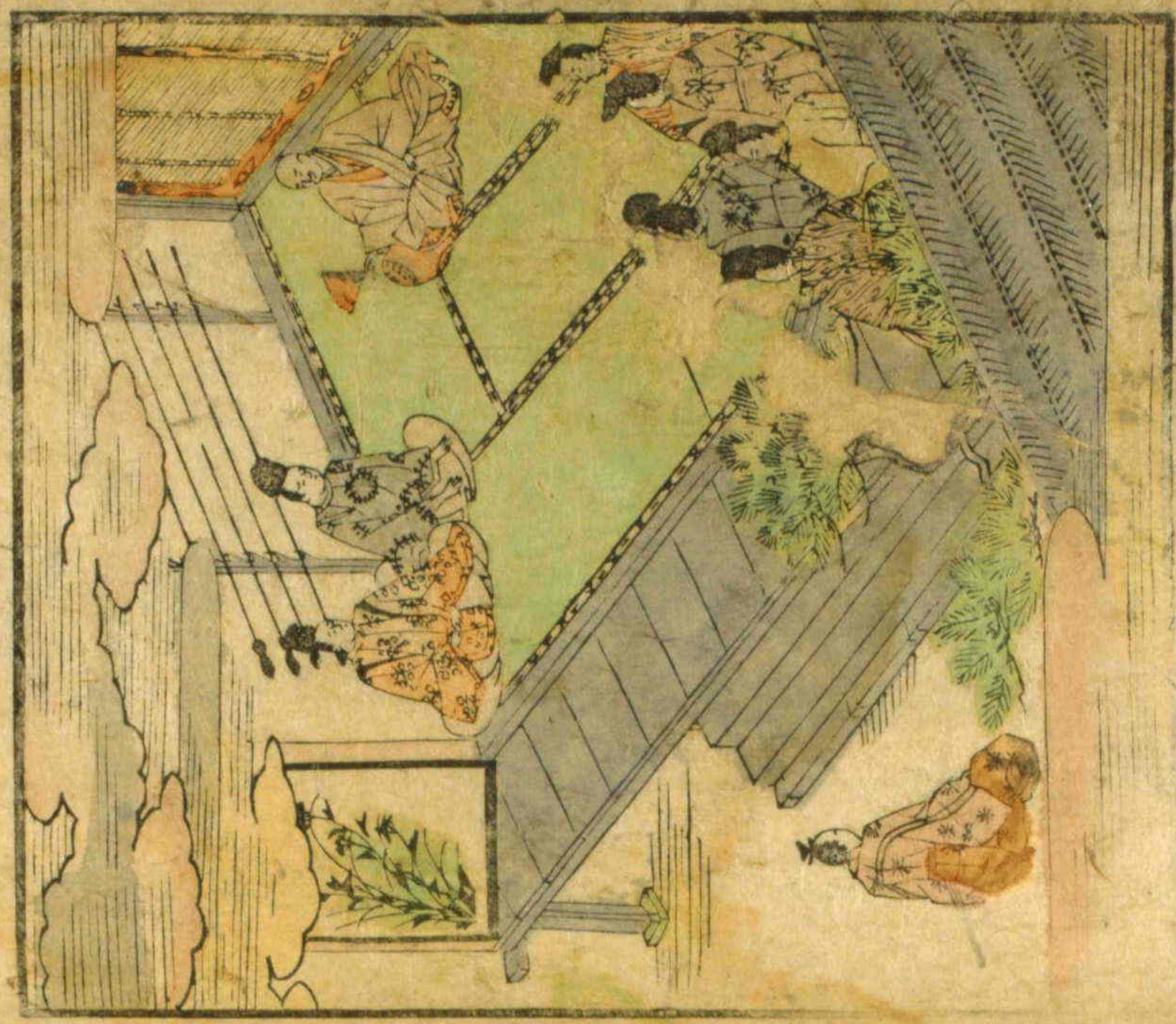
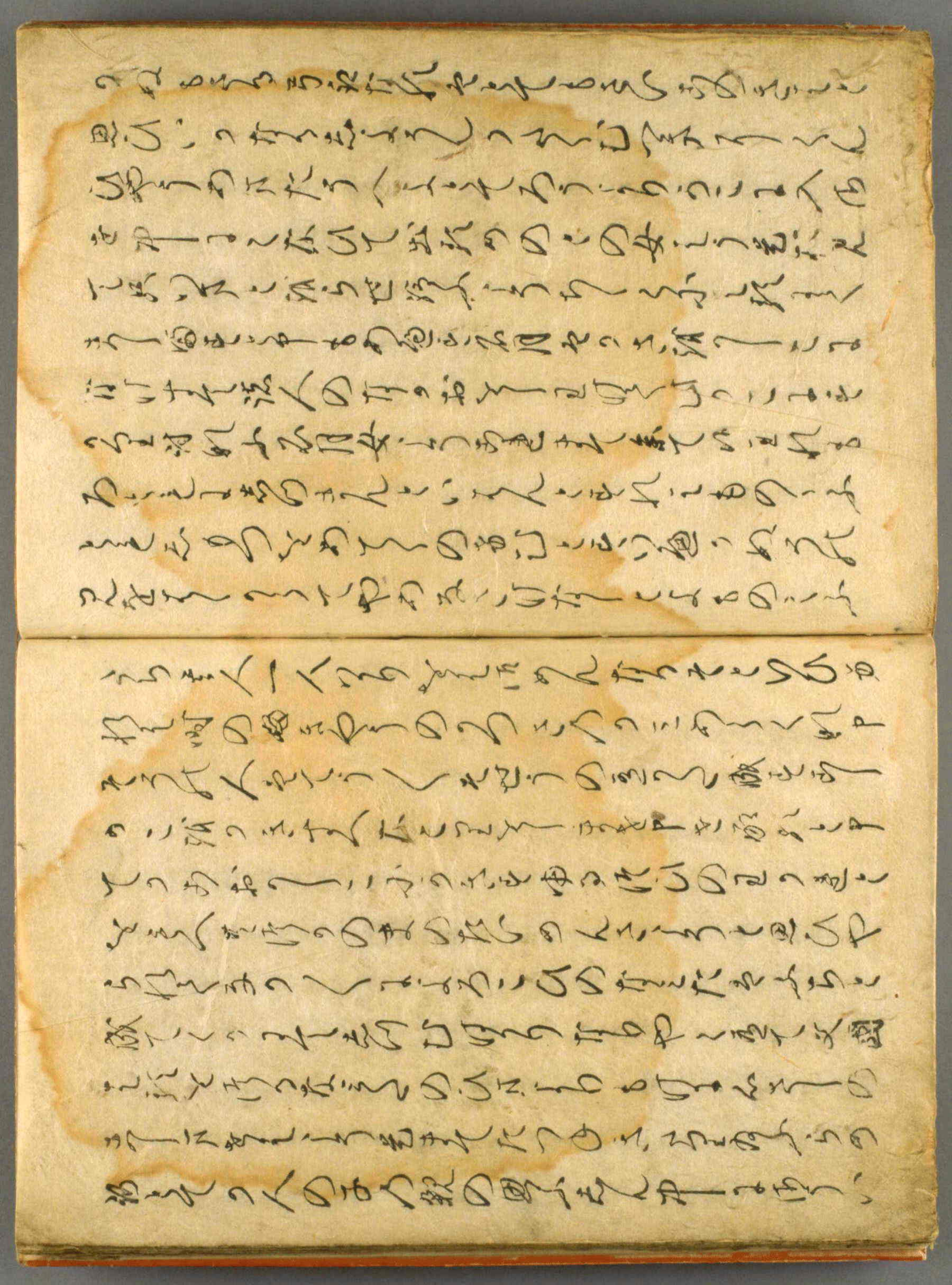
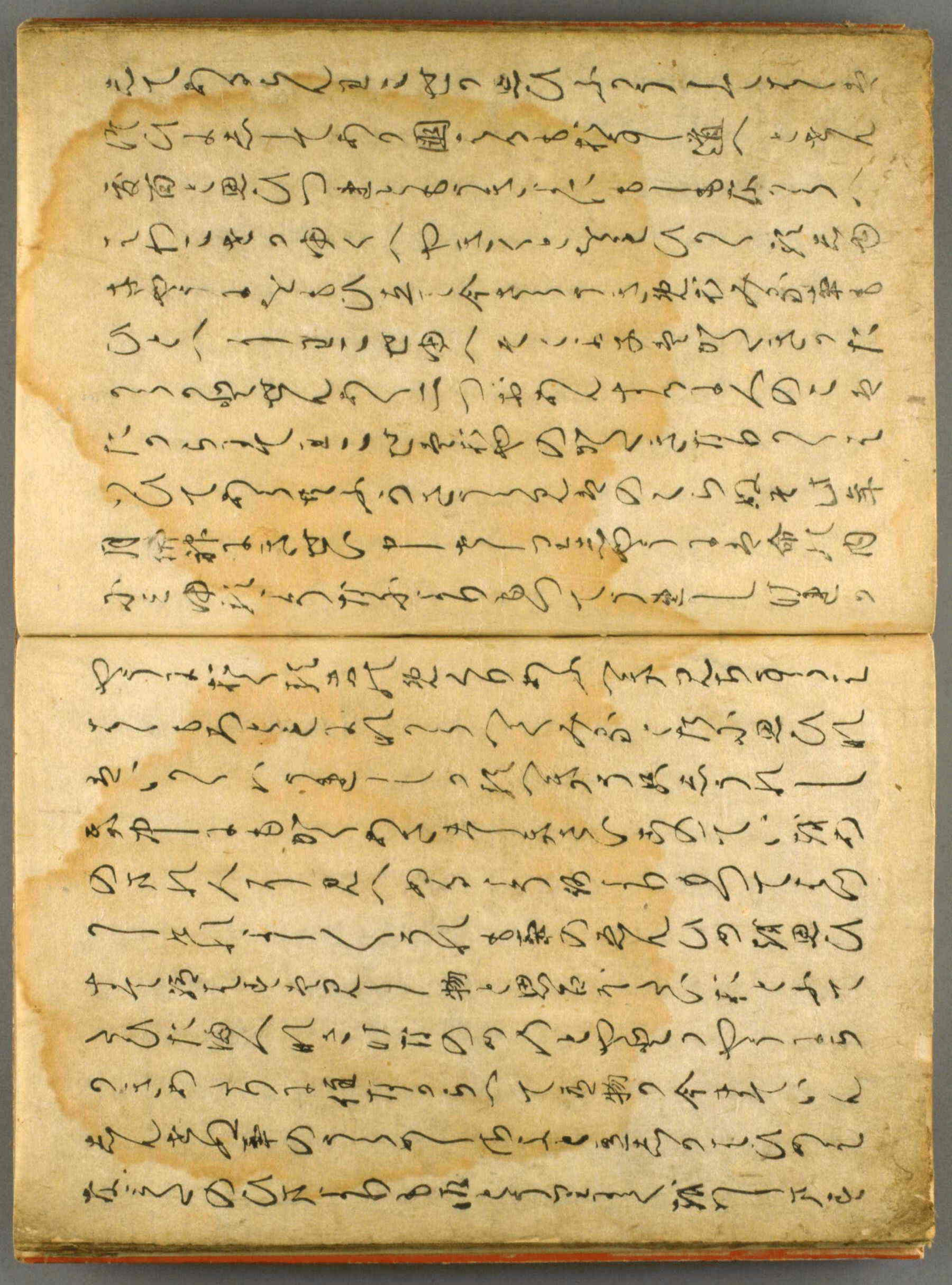




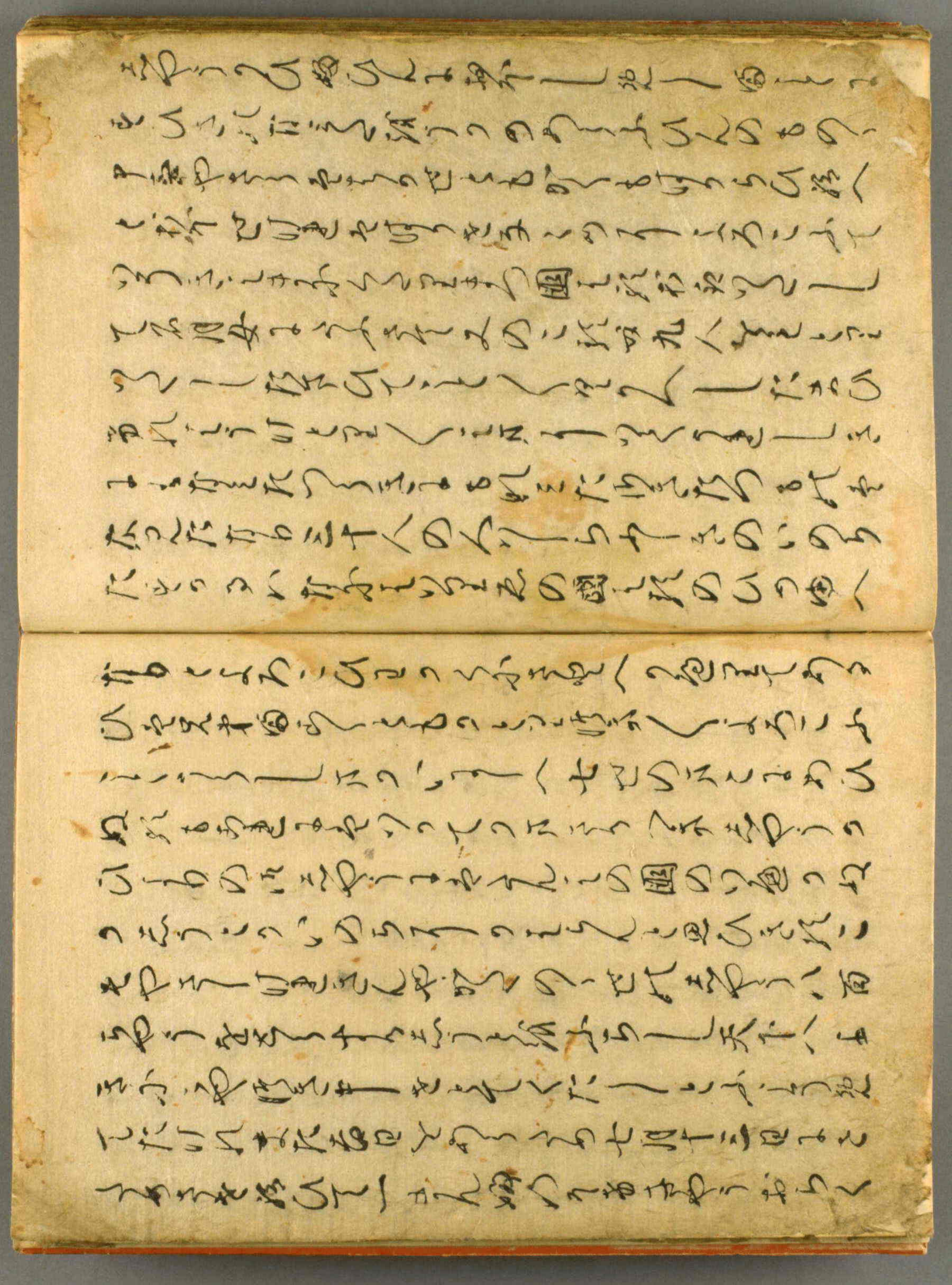




津のいは殿上してやかちうふさたつてやさしき
なんらうたせうとしけるそうろふ
ころ一人としの女十七をよのこれは九人
をし内あうそれもなけさの至かられをしつ
めよく作出されもれものこれ人たものれけき
こたけのくやりうそなしつくとけるところは
ちやうのいの北内より三十人のまゝやの中
ふきあつまりあんていとやしてこのかくちたん
こやうなりうるまん御んたりそし奏かけるを
三十人の人もしらおみやくたてさせ給ふと
も人のなかきのを奏なりしやうき西すかる字

はあし又思ひ立身ふほくもん弾むたふ志給ひ
てきさきの御ひよもそむくつ事志よきんなる
世御中の無く一万ふのそけきやうを志よしや
さきられ世人の代々もんまなふりし一人なつ
ちうそまつたい志事をしやう志由しそこへを
れこしはあしひとやうけこるまつまうを上古
も今もさけこいもたりしまくなかんかれ

ちけ



國立國會圖書館